



# 「ストップ・ザ・無縁社会」 広がれ！全県キャンペーン

<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

## TOPICS

全県的な啓発運動を進めるため、市町域における「地域フォーラム」の開催を支援しています。  
今号から随時、「地域フォーラム」の開催状況をご紹介します。

### 地域の一人の子どもも若者も見捨てない

宝塚市では、11月9日に活動者ら約310人が参加した「宝塚市社会福祉大会」が開催され、佐賀県で引きこもり等の子ども・若者の支援をしているNPO法人スチューデント・サポート・フェイスの谷口代表理事が記念講演を行いました。谷口氏からは、アウトリーチによる数多くの支援を通して明らかになった子ども・若者の実態や、子どもや保護者への支援のポイントが話されました。参加者からは、「今の支援体制の見直しが必要」や「地域でも関わりたい」という声があり、今後の取り組みを考える機会になりました。

住民・関係機関・行政が、それぞれの強みを生かしたネットワークづくりを進め、子ども・若者の社会的孤立を生まない総合的な支援体制づくりが期待されます。



### 子どもも大人も住みよい、支え合える社会へ

養父市では、11月19日に「しあわせフェスタ2016」が開催され、住民や福祉関係者ら約400人が参加しました。

午前の「ボランティアのつどい」では、活動者が絵手紙や手話・傾聴などの体験コーナーを運営。一般参加者は、「活動を体験し、話を聞いてみると身近に感じました」と身近な地域での支え合いに理解を深めていました。

午後には映画「みんなの学校」を上映。鑑賞者は、障害のある子どもが普通学級で学ぶ様子や、住民や学生ボランティア等と学校が協力し、地域全体で子どもを見守る様子に「自分たちでもっと住みよい、支え合える社会をつくっていこう」と思いを新たにしていました。



### 日頃の活動から考える地域の支え合い

高砂市では11月20日に、「共に生きる地域づくりをめざして」をテーマにした「第26回みんなの社協フェア」を開催。気象予報士の正木明さんによる記念講演会では、天気予報等の見方等を通じて、災害に備えて事前に情報収集しておくことや、危険箇所や避難場所を日頃から知っておくことの大切さについて触れられました。

また、当日は、ボランティア登録団体と協働した「福祉見聞スタンプラリー」のブースや、東日本大震災復興支援の手作り作品販売コーナーなどが設けられ、子どもから高齢者まで多くの住民でにぎわい、住民相互のつながりの大切さや、助け合いの心について考える機会となりました。



### 日頃の支え合い活動なくして減災なし！

三木市では、「みきボランタリーフェスタ」の一環として、11月23日に「『ほっとけない！』地域づくりを考える集い」を開催。集落単位での防災活動を進める香美町の実践発表を通じて、民生委員をはじめとする約120人の参加者が、これからの地域づくりの在り方を学びました。

パネラーからは、「福祉・防災マップ」の取り組みにより、自治会や民生委員など関係者間での情報共有が行われ、見守りやサロン活動の意識づくりにつながったという事例を紹介。災害時の防災・減災に向けた日頃からの支え合い活動の大切さが、参加者間で改めて共有されました。

